

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570200867		
法人名	有限会社 ケアセンターみやこじま		
事業所名	グループホーム ふるる	ユニット名	ひまわり
所在地	都城市安久町5596番地1		
自己評価作成日	令和2年11月7日	評価結果市町村受理日	令和3年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action\\_kouhyou\\_pref\\_search\\_list\\_list=true](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年12月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設の周辺には畑が多くのだかな場所に事業所があり、夜間も車の往来も少なく夏、秋頃には虫の鳴く音が聞かれる。そのような環境の中で利用者様元気に毎日を過ごされてます。利用者様の個別ケアを重視した取組をスタッフ全員で連携図りながら業務を行っており、また、働きやすい職場づくりとして勉強会(1回/月)、研修参加(今年はコロナ過の為自粛)など法人挙げて目標を掲げて取組を行なっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

近隣には畑や緑の多い環境で、法人本部でもある有料老人ホームと隣接している。各々のユニットでの工夫や、有料老人ホームとも連携しながら催し物や避難訓練などを行っている。ホームでは理念に基づき、利用者との対話を重視しながら、個別ケアの実践に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、温もりと安らぎです。施設内に掲示して職員間で共有を図ってます		理念にある「温もり」と「安らぎ」で、特に利用者との声掛け・対話を重視しながら、利用者が「温もり」と「安らぎ」を感じれるように支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	現在は、コロナ過の為地域のつながりはできていない。公民館長が運営推進会議に参加され地域の情報を頂いているだけです。		自治会に加入している。感染対策のもと、地区の奉仕作業に参加したり、公民館長をはじめ、地域の方との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館長より地域の方への事業所の紹介、ご理解についてはして頂いております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催行っております。事業所の運営内容を報告し、その中で改善事項等についてはサービス向上に活かせるようにさせてい頂いております。		近隣住民代表をはじめ、多種多様な参加者により運営会議を実施している。意見交換を行い、ホームの運営や、近隣の街灯設置など、意見を反映させるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	都城市介護保険課様との連携を図り、時にはアドバイス等を頂いたりして運営面に取り組んでいる状況です。		市町村との連携を図りながら、身体拘束に関する研修への参加や、感染症対策などに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針に基づき身体的拘束についての取り組みを事業所全体で行なっております。		身体拘束に関する指針に沿いながら、法人内外で研修等に参加し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修などを活用し虐待防止の取り組みを事業所全体で行なってます。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じ、権利擁護の理解を高めてそれらを活用し支援につなげる様心掛けてます。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者様、家族が納得されるまで説明を行いご理解得ております。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置して利用者、家族からの意見要望などを頂き今後の運営に反映させております。	感染症対策のために、面会が制限をされている中で家族とは電話にて現状報告や、運営に関する意見等の聴取を行い、職員会議を通じて職員に周知し、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月／1回の職員会議の中で意見、要望などを聞いて協議を行なってます。	月1回、各々のユニットでの会議や全体での職員会議を開催し、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き易い環境作りを常に心がけて職員の意見を聞いて改善に努めております。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員については、事業所内にて新人研修マニュアルを基に研修を実施し、外部研修参加を活用し職員のスキルアップにつなげております。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時には地域の他事業所との意見の交流を行い事業所のサービスの質の向上を行なってます。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にご本人、家族より情報を聞き入れサービス内容に取り入れるように努めて安心して入所して頂ける様に心掛けてます。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご本人、家族より情報を聞き入れサービス内容に取り入れるように努めて家族が安心して頂ける様に心掛けてます。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、サービス内容をご本人、家族へ説明し同意を得るように努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者様と共に生活を営む一員として業務を行なう様に努力しております。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所として家族との連携を常日頃図りながら利用者様の支援を行なっています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過の為、面会規制等行なっている状況である。	感染症対策のために、外部との接触が困難な状況に対し、関係継続のための対策、対応に取り組めていない。	手紙やホームの広報誌などを使って、馴染みの関係を継続できるような対策、支援に期待したい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がコミュニケーションを図り易い環境作りを心掛けております。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者、家族の方から要望があれば相談や支援に努めています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様ひとりひとりの思いを尊重し、サービスの提供が出来るように心掛けている。	利用者からは発言や表情などから気分や意向を把握し、家族には随時電話でのやり取りにて、思いや意向の把握を図れるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者様の生活歴、環境などを十分に理解した上でサービスの実践に努め、定期的に見直しを行なっています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の連絡を密にとり利用者様の生活状況、身体状況の把握に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス会議(1回/月)を活用し、利用者様の状態変化など対応出来るよう心掛け、介護計画策定を行なっています。	毎月1回計画作成者がモニタリングを行い、その情報の確認を職員会議の場でも確認し、職員全体の意見を反映させ、計画書の作成に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録にてケアの実践内容を明記しその中で気づいた事などを共有しながら介護計画策定に反映させてます。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族様が納得できるサービスの提供が常日頃出来るように職員間の連携を取って業務を行なっています。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団、派出所などと常日頃より連携をとり利用者様が安全で安心した生活が送れるように取り組んでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の健康状態を常に把握して、定期受診時にかかりつけ医に報告して適切な医療が受けれるように支援している。	本人や家族の希望する医療機関に家族と一緒に受診を行っている。家族が通院が困難な場合は職員が送迎・対応を行い、受診支援に取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と連携をとり、利用者様の健康状態の把握に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に入院先の担当と連絡をとり利用者様の状態把握に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、家族へ終末期の対応についての意見を伺い、終末期の方針を共に共有しながら支援に取り組んでいる。	入居時に、終末期に関する意向を書面で、説明・確認を行っている。その後も随時利用者の状況に合わせてターミナルカンファレンスを行い、支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等を活用し、緊急時の対応についての知識を高め、支援に努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を活用し地域の方の参加も促し非常時に備えている。	隣接する有料老人ホームとの合同での避難訓練や、グループホーム単体と地区の消防団との連携での地震・火災(夜間想定)の訓練を実施するなど、災害対策に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	温もりのある声かけを目標にして実践している。		利用者の状況に応じた声掛けや生活歴や人格を尊重したケアの実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の要望、意見等あれば尊重し自己決定できるようにケアを行なっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく利用者様のペースに併せケアを行なう事を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に更衣、洗面時でのモーニングケアの実践などを行い、その人らしい身だしなみがいつも出来ているように心掛けている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳時にはメニューの紹介をして、食後については食器拭き、コップ拭きなどのお手伝いをしている。		食事前後の準備や片づけを利用者の能力に応じながら職員と一緒にいるなど、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分摂取量の把握に努め食事制限のある利用者様については十分な配慮をしながら支援を行なっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様全員が食事摂取後に口腔ケアをして頂くように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ利用の出来る方、尿意、便意のある方については出来るだけ自立できるように支援を行なっている。		利用者の個々の排せつパターンを把握し、こまめな排せつ誘導を行うことで、おむつの使用枚数の軽減やトイレでの排せつが継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の利用者様は、軽運動の促しと水分摂取量の調整などを行なっている。かかりつけ医とも相談しながら便秘の予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は決めてあるが、その日の利用者様の意見を聞き入れ入浴して頂いている。		利用者の体調や気分・意向に合わせて週2回の入浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の中で利用者様の状態を把握して休息、入床の促しを行なっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援についてはダブルチェックをしながら支援を行なっている。頓服薬等については医師の指示のもと職員間で連携しながら服薬支援を行なっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味等(編み物、読書など)ある方については生活の中に取り入れて頂き、少しでも楽しみのある毎日を送って頂くように支援をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過の為、実践できてません		感染症対策のために、日常的な散歩などは行えていない。	



自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持、保管可能な利用者様はいなく、行事の模擬店にて金券を用い買い物して頂く支援は行なっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙の拝読等出来る利用者様については支援を行なっている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境面については常に配慮、気配りを行なっています。出来るだけ季節感のある飾付けなど。	照明・室内温度などは利用者が過ごしやすいように設定し、テーブルやソファの配置も車いす利用者に配慮し設置するなど居心地のよい共用空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内、中央ホールなどソファを配置して気軽に他者様との会話が出来る環境作りを行なっています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時について、持ち込み品は出来るだけ利用者様が使い慣れたもの(タンス、鏡他)を持って来てもらい違和感なく生活出来る環境作りを行なっている。	自宅で使い慣れた家財を自室に持ち込むことで家庭的かつ馴染みのある環境での生活が送れるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内、トイレなどの手摺の設置など利用者が安心して自立し生活が送れるように配慮している。			